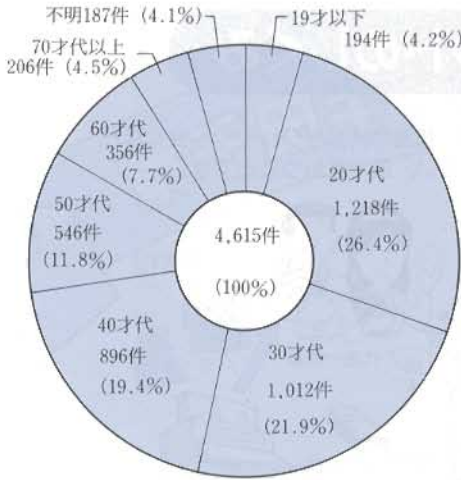


別表1 苦情相談の年齢別構成



一九八〇年代前半をピークとするサラ金禍は大きな社会問題となり、一九八三年いわゆるサラ金規制法が施行されて以来、サラ金関連の相談は沈静化傾向を見せていた。一九九〇年代に入り、クレジット・サラ金関連の相

多重債務者急増

あなたは
かっこいい消費者ですか？
—カード地獄へ陥らないために—

広島県立生活センター 啓蒙指導課長

馬場 節子

生活センターに寄せられた事例

A子の場合。ファッションに少しばかり興味を持っていたA子(二四歳OL)は、本通りで声をかけられた。巧みなリップセールスでブランドもののツーピースを二一万円で購入する羽目になった。それをきっかけにアクセサリー・バックと次々にクレジットカードで購入しているうちに自分の収入では返済が出来なくなった。支払いのためのキャッシングを繰り返しているうちに四〇〇万円近くの借金となり生活センターへ駆けこんできた。

談が増え、昨年度は当センターのワースト一〇に登場してきた。一〇年前の債務者は、生活苦の中年層が主役であったのが、最近の特徴は、ぜいたく品や遊興費のために借金をする若者や女性に移ってきたことである。

別表2 苦情ワースト10

順位	平成2年度		平成元年度	
	商品・役務名	件数	商品・役務名	件数
1	資格・講座	318	クリーニング	296
2	クリーニング	310	学習教材	291
3	学習教材	276	書籍・印刷物	242
4	他の住居(電機・家具など)	208	医療用具	213
5	医療用具	204	資格・講座	205
6	書籍・印刷物	185	理美容	158
7	自動車	172	自動車	151
8	理美容	150	布団	133
9	家具・寝具類	148	化粧品	124
10	他の金融(サラ金・クレジット関連)	146	電話機	122

彼女は一ヶ月一万円少々の支払いなら何とかなると思ったと当時を振りかえっていた。このようなケースは例外ではなくなってきた。

クレジットは打ち出の小槌ではない

一九九一年三月末の全国のクレジット発行高は一億八〇〇〇万枚、毎年二〇〇〇万枚ずつ増えると言われている。

ご存知ですか？

クレジットのしくみ

●クレジットは“借金”です



●クレジットは、商品の代金をクレジット会社などに立替えてもらい、後で支払うことです



「クレジット」とは本来「信用」を意味する言葉で、利用者の信用が担保である。金銭の融資や商品の信用販売を行うシステムをクレジット（消費者信用）と言い、通常、「クレジット」と言えば商品の信用販売のみを指す。信用販売には、商品代金を分割して支払う割賦方式と非割賦方式がある。クレジットカードは、キャッシュレスで便利な反面、使い過ぎるという危険もはらんでいる。

悪質商法の手口は…

「アンケートに答えてほしい」と声をかけ、化粧品やエステティックを契約させるキャッシュセールス。電話で「海外旅行のモニターに選ばれた」と言って呼び出し英会話教材を売りつけるアポイントメントセールス。資格時代を背景に巧妙に誘う土商法。「よい話がある」「よいアルバイトがある」と言って誘うマルチ・マルチまがい商法など悪質商法は後を断たない。

これら悪質商法の手口は、虚偽の説明、誇大な説明、執拗な勧誘、優良・有利と誤認させる説明や、迷惑な時間帯（夜・勤務中）に電話勧誘するなどが特徴である。また、クーリングオフ（訪問販売の場合、契約日を含め八日以内なら無条件解約できる制度）のがれ

や不当な解約料なども苦情の原因となっている。この他、今話題のダイヤルQ2を子供が利用し、月七二万円の通話料を請求され、払えないと言う消費生活相談もある。

節度あるカードの利用を

現代社会は、テレビ等のコマーションにより、購意欲をおおられ、不要・不急のものまで買ってしまう状況におかれている。従って、カードを持つ時の自衛策をまとめてみた。

- ① 契約条件をよく理解しておく。
- ② キャッシングの利息は高金利（実質年率二五〜三〇％位）
- ③ 支払期日を守る。（遅延損害金も高額）
- ④ 他人には貸さない。紛失した時は即刻信販会社や警察へ届出る。
- ⑤ 購入伝票と請求書のチェック。
- ⑥ 本当に必要なかどうかよく考え、カードの使い過ぎに注意。

最近の多重債務トラブルの特徴は、信販・クレジット会社・銀行など債務の「多重化」と「複合化」にある。消費者は、無計画な金銭管理、安易な消費行動をつつしみたいものである。一方、業界側も信用供与を厳しくし、カードの過剰発行の自粛など自主規制を更にすすめて頂きたい。

以上、消費生活トラブルにまきこまれないことを願って近時の紹介を終わりたい。